

「郷土を愛し、未来を創る人づくり」のための
自己点検・評価報告書

平成29年3月

御前崎市教育委員会

〈参考〉地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第三項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。))を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目 次

I	はじめに	1
1	趣旨	2
2	点検・評価の対象	2
3	点検・評価の方法	2
4	点検・評価結果の構成	2
II	御前崎市教育委員会の職務・事業内容	3
1	教育委員会の活動	3
	施策1 スクラムプランで推進する教育委員会	4
2	教育委員会が管理・執行する事務	4
3	教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	5
	施策2 生きていく力の基礎の育成を図る乳幼児教育	5
	施策3 これからの社会を生き抜くための資質 ・能力の育成を図る学校教育	5
	施策4 だれでもいつでもどこでも学べる 生涯学習の充実を図る社会教育	6
	施策5 市民と共に考え共に歩む市立図書館	7
	施策6 子供の心と体を支える魅力ある園・学校給食	7
	施策7 充実した教育環境の整備を図る教育総務	8
III	御前崎市教育委員会の自己点検及び評価	9
	大項目1 教育委員会の活動	9
	大項目2 教育委員会が管理・執行する事務	11
	大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務	12
IV	学識経験者の意見	27
V	総合評価	29

「スクラム」についてのアンケート調査結果 参考資料

I はじめに

御前崎市教育委員会では、第2次御前崎市総合計画の基本目標「郷土を愛し、未来を創る 人づくり」に基づき、毎年度発行している「スクラム御前崎」の中で、教育の基本目標と主要施策を明確に示すとともに、施策の実現に努めてまいりました。

平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号。以下「地方教育行政法」という。）が改正され、この改正の大きな柱の一つである「教育委員会の責任体制の明確化」の方策として、同法第26条により、教育行政の効果的推進及び市民への説明責任を果たすべく、「教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行う」ことが義務付けられたところであります。

このことを受けて御前崎市教育委員会では、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出するとともに、市民への公表を行ってまいりました。

本報告書は、平成28年度御前崎市教育委員会の活動及び「スクラム御前崎」で示した主要7項目の実現のための24施策について点検及び評価を行い、その客観性を確保するため、学識経験者4名から所見をいただくとともに、第三者的立場から静岡大学教育学部教授の山崎保寿氏にも外部評価をしていただき、ここに報告書として取りまとめたものであります。

市民の感覚、視点を持って点検・評価を行うことは、今日の課題や今後の取組方針が明確になる点において、大変意義のあるものと思います。

今後も「郷土を愛し、未来を創る 人づくり」を基本目標として、園、学校、地域、行政がスクラムを組み、それぞれの施策を推進してまいる所存であります。

平成29年3月

御前崎市教育委員会委員長 吉 村 勝

1. 趣 旨

御前崎市教育委員会は、地方教育行政法第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する主要な施策や事務事業の取組状況について、政策効果を把握し、その必要性・効率性等の観点から、自ら点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図るとともに、この点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、市議会に提出するとともに一般に公表することにより、市民に対する説明責任を果たし、信頼される教育行政を推進しようとするものです。

2. 点検・評価の対象

点検及び評価は、平成28年度における教育委員会の職務内容や主要な施策・事業を対象として実施いたしました。

3. 点検・評価の方法

点検及び評価の実施にあたっては、平成28年度の事業について、その進捗状況を総括するとともに、内部評価を行うことにより課題や今後の取組の方向性を明らかにし、その結果を外部評価として、元小学校長 澤入 眞佐義 氏、元幼稚園長 増田 喜巳子 氏、前教育委員 沖 千鶴 氏、元中学校長 杉浦 尚志 氏のご意見や、静岡大学教育学部教授 山崎 保寿 氏に総合評価を頂くことにより、教育に関する学識経験者の知見活用に努めました。

4. 点検・評価結果の構成

点検・評価結果については、「御前崎市教育委員会の自己点検・評価シート」で表しました

自己点検・評価シートは、教育委員会の職務、事業内容及び事業体系を大きく3つの大項目に区分した構成となっています。

① 大項目1「教育委員会の活動」

教育委員会という組織の自らの行動、すなわち教育委員が自ら行う行為・活動を中心に、点検事項として教育委員会会議の開催回数、運営、広報・公聴、研修会など小項目を設け、点検・評価の対象としました。

なお、「スクラム御前崎」で掲げられた具体的施策のうち、「(1)スクラムプランで推進する教育委員会」については、この大項目内の項目に含むものとして評価を行いました。

② 大項目2「教育委員会が管理・執行する事務」

地方教育行政法及び御前崎市教育委員会の権限に属する事務の一部を教育長に委任する規則（平成16年教育委員会規則第5号）の定めるところにより、教育委員会の権限のうち教育長に委任せず教育委員会が合議によって定

め実施する事項となります。これについて、教育委員会が自ら管理・執行する事務として区分し、15の中項目に分けて構成いたしました。

この大項目内の各項目については、各事業実施年度において、教育委員会が計画し実施する性質のものではなく、事象が発生したときに法律等により実施義務が生じるものであります。従って事業実施年度における事象の発生件数とその事象への対応状況の点検を行いました。

③ 大項目3「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」

教育委員会の職務及び事業から①及び②に掲げた事項を除いた部分について、管理・執行を教育長に委任して行う事務としてまとめることといたしました。この部分については、「スクラム御前崎」に掲げられた具体的施策のうち、(2)から(7)までの6項目について評価を行いました。

II 御前崎市教育委員会の職務・事業内容

自己点検・評価についての報告書をまとめるに当たっては、まずその対象となる教育委員会の権限に属する事務について、その概要の説明が必要となることから、教育委員会の職務・事業内容及び事業体系について記述し、その後に、点検及び評価の対象年度における主要な事業について記述することといたします。

教育委員会の職務・事業内容及び事業体系については、既に「点検・評価結果の構成」において記述したとおり、「教育委員会の活動」、「教育委員会が管理・執行する事務」、「教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」と大きく3項目に区分して表すことにいたしました。

以下、それぞれの大項目について示します。

1. 教育委員会の活動

(1) 教育委員会とは

教育委員会は、地方教育行政法の定めるところにより、学校その他教育機関の設置、管理その他の教育事務を執行することを職務権限とする行政委員会であり、5人の委員をもって組織される合議体の執行機関です。

(2) 教育委員会の構成

御前崎市教育委員会の構成は、次のとおりです。

ア 委員・・・委員は、御前崎市長の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、市長が、市議会の同意を得て任命します。任期は4年で非常勤です。

イ 委員長・・・委員長は、教育長を除く委員の中から1名が互選により選ばれます(任期1年。再任可)。委員長は、教育委員会の会議を招集・主宰し、教育委員会を代表する者とされます。

ウ 教育長・・・教育長は、委員長を除く委員の中から、教育委員会によって任命されます。教育長は、常勤で、教育委員会の指揮監督の下に、教育委員会の権限に属するすべての事務をつかさどり、事務局の事務を統括し、所属の職員を指揮監督します。

(3) 御前崎市教育委員会委員の名簿

(平成29年3月現在)

役職名	氏 名	任 期
委員長	吉 村 勝	平成28年 6月24日～平成32年 6月23日
委 員	紅 林 幸 枝	平成28年 6月24日～平成30年 6月23日
委 員	下 村 勝	平成28年12月 1日～平成30年 6月23日
委 員	竹 田 和 世	平成29年 3月 1日～平成31年 6月23日
教育長	篠 田 暁 美	平成25年 7月 1日～平成29年 6月30日

施策1 スクラムプランで推進する教育委員会

大項目1にて評価

2. 教育委員会が管理・執行する事務

教育委員会の職務権限は、地方教育行政法第21条にその職務権限が定められていますが、その職務権限に係るもののうち、以下のものについては、同法第25条第2項により教育長に委任することができず、直接、教育委員会が行うこととされています。

- (1) 幼児教育、学校教育及び社会教育に関する一般方針を定めること。
- (2) 学校、公民館及び図書館の設置及び廃止を決定すること。
- (3) 県費負担教職員の懲戒及び県費負担教職員たる校長の任免その他の進退について内申すること。
- (4) 県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。
- (5) 前2号に定めるもののほか、人事の一般方針を定めること及び懲戒を行うこと。
- (6) 県費負担教職員以外の校長、公民館長及び図書館長の任免を行うこと。
- (7) 教育長並びに教育委員会事務局職員の任免を行うこと。
- (8) 学校、公民館及び図書館の敷地を選定すること。

- (9) 教育委員会規則等の制定又は改廃について審議すること。
- (10) 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。
- (11) 社会教育委員、公民館運営審議会委員及び図書館協議会委員を委嘱すること。
- (12) 校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。
- (13) 学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること。
- (14) 教科用図書の採択に関すること。
- (15) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うこと。

以上を、教育委員会が自ら行う事務として整理いたしました。

3. 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

この事務は、「スクラム御前崎」で示している平成 28 年度の具体的施策のうち、その管理、執行が教育長に委任されている事業は次のとおりです。

施策 2 生きていく力の基礎の育成を図る乳幼児教育

乳幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われる極めて重要な時期です。そのため、乳幼児期からの安定した生活を基礎に、園での主体的な遊びを通して、人として生きていく力の基礎を育んでいきます。また、園で培った力が滑らかに小・中学校に接続できるようスクラム・スクール・プランを積極的に推進します。

(1) 『遊び込む子』育成のための環境を整えます

『遊び込む』とは、幼児が身近な環境に関心をもって自ら関わり、遊びを継続し、発展させながら夢中になって遊ぶ姿です。『遊び込む』ことで充実感や満足感を味わい、人と関わる力、思考力、感性、表現力など、人として生きていく力の基礎が培われるよう、教育・保育を充実させます。

(2) 家庭や地域と一緒に子どもを育成します

家庭との連絡や情報発信を強化し、一緒に子どもを育てていく意識の向上を図ります。また、こども園併設の地域子育て支援センターを通じて、在園時以外の親教育や育児支援を充実させます。

(3) 早期からの発達支援の充実を推進します

関係機関とスクラムを組み、早期からの発達支援を充実させることにより、保護者の不安解消やよりよい就学支援につなげていきます。また、各種研修会を実施し、職員や支援員の資質向上と効果的な支援を行います。

施策 3 これからの社会を生き抜くための資質・能力の育成を図る学校教育

学校教育の中で児童生徒に身につけさせなくてはならないのは、「これからの社会を生き抜いていくための資質・能力」です。『資質・能力』とは、「基礎基本の知識・技能」「思考力・創造力」「主体的に人・社会とかかわる力」のことです。

学校教育課は、「スクラム・スクール・プラン」を推進し、学校が児童・生徒に『資質・能力』を身につけさせる教育の営みを多角的に支えていきます。

(1) これからの時代に必要な資質・能力の育成を図ります

『資質・能力』の育成を図るために、園・小学校・中学校・高校の教職員がスクラム・スクール・プランを通して、子ども観や教育観を共有し「とぎれない教育」の実現を目指します。

(2) 心と体づくりを推進します

豊かな心と思いやりのある心を育てるため、「スクラムグッドマナー運動」をはじめ地域へ貢献する活動を子どもたちの手で広げていきます。

(3) 個にきめ細やかに対応する教育環境体制づくりを進めます

特別に支援を要する子や不登校に悩む子など、児童生徒一人ひとりに応じた教育を推進するために、「しおかぜ先生」や「スクールソーシャルワーカー」の配置など、きめ細やかな指導や支援の充実を図ります。

(4) スクラムによる園・学校・家庭・地域の教育力向上を図ります

子どものよりよい成長は、園・学校教育はもとより、家庭や地域がそれぞれの役割を理解し、責任を果たすことで図られていきます。そのため本市では、相互の教育力を相乗的に高めるコミュニティ・スクールの御前崎版となる「スクラムスクール運営協議会」を推進していきます。

施策4 だれでもいつでもどこでも学べる生涯学習の充実を図る社会教育

生涯にわたって学びを楽しむ風土を根付かせていくために、地域の特性も活かしながら様々な学びの機会を市民に提供していきます。

社会教育課は、園、学校、家庭及び地域とのスクラムを重視し、次の事業を展開していきます。

(1) 自立心を持った青少年を育成します

青少年健全育成については、生活体験や世代・地域交流を通じて子どもたちの感動と規範意識を養う活動を推進します。そして、地域ぐるみでサポート隊活動などによる防犯活動、声かけやあいさつ運動を展開し、良好な社会環境整備に努めます。

また、保・幼・小・中学校と連携し、地域や行政も一体となってスクラムグッドマナー運動を推進します。

(2) 誰もがいつでも学ぶことのできる生涯学習基盤を充実させます

地域の特色を生かした生涯学習拠点としての公民館活動の充実強化を図り、地域住民が気軽に立ち寄れる公民館として施設整備を進めていきます。

また、子どもから大人まで市民の学習意欲の高揚を図るため、CATV等とスクラムを組んで生涯学習活動に関する情報を発信します。

(3) 地域文化財や芸術文化の継承と推進を図ります

地域の隠れた文化財の発掘及び先人たちが守ってきた史跡名勝天然記念物や有形・無形の歴史的文化遺産などを後世に残す取組とともに、これらの地域文化財を活用して郷土の誇りを育てる事業を推進します。

また、文化団体との連携を深め、芸術文化活動を支える市民力のより一層の醸成及び文化施設の適切な維持保全、積極的活用による文化活動の充実に努めます。

(4) 心身ともに健康な市民を目指すスポーツの振興を図ります

生涯を通じて健康な体をつくるために、基礎体力の向上に取り組むことは大切なことです。幼少期から基礎体力の向上を目指し、併せて誰でもスポーツを気軽に継続して取り組める環境をつくり、健康な体づくりを推進します。

施策5 市民と共に考え共に歩む市立図書館

市民の生涯学習拠点として、市民ニーズに対応したサービスに努め、市民生活の拠り所となる図書館を目指します。

(1) 多彩な文化事業を展開します

地域の教育・文化の中心的役割を担う施設として、市民と協働し、大人から子どもまで学びたくなる場を提供し、その成果を発表する機会を設けるとともに、多くの市民が参加できる魅力ある文化活動を展開します。また特設コーナーを設け、時事等に関する資料や情報を掲示することにより、利用者の興味を喚起し、読書意欲が高まるよう創意工夫します。

(2) 子どもの読書活動を推進します

子どもが読書に親しむための読書環境を提供するとともに、図書館内外のあらゆる機会をとらえ、学校や園等の教育機関とスクラムを組み、市民ボランティア等の協力を得ながら積極的に子どもたちとふれあい、読書の楽しさ・魅力を発信します。

(3) ニーズに即した快適で魅力あるサービスを提供します

市民のニーズに対応し、現代社会の状況を知るのに必要なあらゆる資料を収集・提供するとともに利用管理、蔵書管理をします。そして生涯学習を支える施設として、調査・研究を支援し、市民生活に必要な情報を提供します。

施策6 子供の心と体を支える魅力ある園・学校給食

(1) 食育と地産地消を推進します

園、学校、保護者等と連携を図り、給食試食会参観と同時に栄養講話「食育について」を、依頼に応じて実施します。また、園、学校等で定期的に食に関する指導「15分指導」を実施します。

また、地産・地消を推進するとともに、園・学校・給食センターの連携により残食の減少を目指します。

(2) 安全安心な給食の提供を実施します

調理場においては、栄養教諭等を衛生管理責任者として定め、施設及び設備の衛生、食品の衛生及び給食調理員の衛生の日常管理等に当たります。

調理過程における下処理、調理、配送等の作業工程を分析し、各工程において清潔かつ迅速に加熱及び冷却調理が適切に行われているかを確認し、その結果を記録します。

調理場調理員、調理場職員、学校側給食従事者について、月2回の保菌検査を実施します。また調理場調理員・職員はノロウイルス検査など、必要に応じた諸検査を実施し衛生管理に努めます。

異物混入等を防ぐため、食材の納入から調理、配缶、配送に至るまで、安全管理を徹底します。

施策7 充実した教育環境の整備を図る教育総務

園・学校は、子供たちが一日の大半を過ごす学習の場であり、その安全性の確保に努めます。また、ICT（情報通信技術）教育の導入に向けて、学校教育課と連携して計画策定を進めます。

(1) 安全安心な教育環境の充実を図ります

設備面の維持管理では、壊れてから直すのではなく、壊れる前に計画的に改善し、児童・生徒の安全確保に取り組みます。

また、学校施設既存天井の落下防止対策と、白羽小学校水泳プールの移転工事を進めます。

(2) 教育情報化に必要なICT環境の基盤を整備します

授業でのICTネットワークを活用した教育を実施するため、子供たちの主体的な学びの実現を推進し、一人一人の個性や能力を発揮できるよう情報通信機器整備を進めます。

継続的な情報教育と円滑な校務を維持するため、浜岡中と御前崎中のパソコン教室用パソコンの更新を実施します。

(3) 浜岡中学校の建替えに着手します

国庫補助金の交付対象条件となるよう、平成27年度に再度耐力度調査を実施し、県財務課との協議により財源確保の検討を進めます。

また、市の第2次総合計画策定に合わせて、建て替えのための具体的なスケジュールを検討します。

Ⅲ 御前崎市教育委員会の自己点検及び評価

今回教育委員会の自己点検・評価について報告書をまとめるにあたり、教育委員会が行っている大項目1、2、3について自己点検評価シートにまとめました。

なお、「スクラム御前崎」に掲げる主要施策のうち、(1)は大項目1に含むものとして、(2)から(7)までは大項目3で点検・評価を行いました。

御前崎市教育委員会の 自己点検・評価シート	実現度 <table border="1"> <tr><td>3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>1</td><td>2</td><td>3</td></tr> </table> 重要度	3			2			1	2	3	◎3段階評価とし、以下の達成状況により評価しています。 ○実現度 3・・・達成またはほぼ達成している(概ね80%以上) " 2・・・概ね達成している(概ね40%超～80%未満) " 1・・・達成していない(概ね40%以下) ○重要度も上記に準じて評価しています。
3											
2											
1	2	3									

大項目1 教育委員会の活動

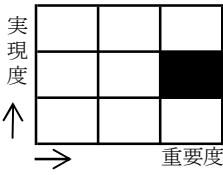
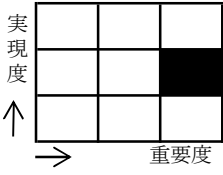
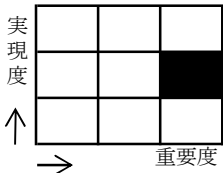
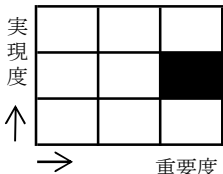
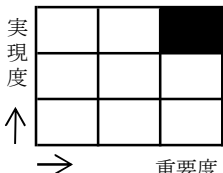
中項目	小項目	点 検 ・ （ 評 価 ）										
(1) スクラムプラン で推進する教育委員会	①御前崎の教育の推進をするため、教育委員の研修を深めます。	実現度 <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> 重要度										○常葉大学教育学部堀井啓幸教授の紹介により、富山県富山市立堀川小学校、芝園小・中学校を訪問。独自のフリートーク方式による学びの実感がある授業や、自発を促すための工夫された環境構成について視察し、魅力ある授業づくり、環境づくりについて、学校訪問や園長会などを通じて紹介し、今後の御前崎の教育の重要課題とした。
	②常に実態・課題把握に努め、御前崎の教育の推進を図ります。	実現度 <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> 重要度										○教育委員会の施策について審議するため、定例会を毎月1回計12回開催し、市の教育の充実に向けて活発な議論を行った。また、委員会終了後、委員のみで研修を行い、課題について深めている。
③園・学校・施設での移動教育委員会を行います。	実現度 <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> 重要度										○町内会長総代を対象とした移動教育委員会を開催し、日頃感じている子どもたちや家庭、地域の様子について意見交換を行った。地域を巻きこんでいくために、スクラムの発信がさらに必要であることがわかった。今年度は1回開催。	
④教職員同士で語り合う会、子供が語り合う会、社会教育委員会、公民館長会など語り合う会を開催します。	実現度 <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> 重要度										○社会教育委員会を6回、公民館長会議を2回開催し、情報交換を行った。教職員同士や子供同士が日頃感じていることや夢を語り合うことを通して交流を深めたり、自己を高めたりして更にスクラムの推進を図ろうとしたが、教員や子供が語り合う会は実施できなかった。スクラムスクール運営協議会を通して少しずつ地域を巻きこんだ教育の実現に向かっているが、まだ十分にスクラムが行き渡っていない。地域を巻きこむ手だてが必要である。	
⑤御前崎の教育を広く発信します。	実現度 <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> 重要度										○「スクラム御前崎」を関係機関等に配付し、御前崎市の教育について広報したが、ホームページ開設や教育委員会だより等の発行に至っていない。地元新聞記者と定例の懇談会を実施している。	

(1) スクラムプラン で推進する教 育委員会	⑥教育委員会と首 長との意見交換会 の実施	実現度 <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> 重要度										○3回開催された「総合教育会議」において、1.「御前崎市教育振興基本計画（大綱）について」、2.「御前崎市のスクラム教育について」、3.「子ども子育て支援条例について」市長と意見交換を行い、行政執行部との意思統一を図った。 ○毎月1回の経営者会議において、市長と教育長との連絡を密にし、市長に教育委員会の考えが常に伝わるよう努めた。
⑦研修会への参加 状況	実現度 <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> 重要度										○県主催の研修会や研究協議会等に積極的に参加し、新学習指導要領に向けての文科省の動向や論点整理など教育情報の収集に努め、大変参考になった。	
⑧ 園・学校訪問	実現度 <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> 重要度										○小・中学校は年2回、幼・保・こども園は年1回、全校全園を訪問した。本年度から、園や学校の概要説明を短くし、懇談会の時間を多く持つようにした。保育や授業の参観を通して見えた成果や課題を関係者と話し合った。園や学校のがんばりを認めるとともに、課題に対しては助言し、解決に努めた。 ○入学式、運動会などの園・学校行事にも、全委員が積極的に参加した。	
⑨ 所管施設の訪問	実現度 <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> 重要度										○教育委員会としての施設の訪問は行わなかったが、各委員がそれぞれの施設を日々利用することで情報を得ている。	

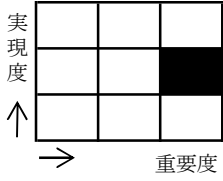
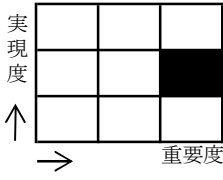
大項目2 教育委員会が管理・執行する事務

中項目	小項目	件数	点 検
(1)	幼児教育、学校教育及び社会教育に関する一般方針を定めること。	1	○御前崎市教育委員会の主要施策を「スクラム御前崎」としてまとめ、教育委員会に諮り決定した。
(2)	学校、公民館及び図書館の設置及び廃止を決定すること。	0	
(3)	県費負担教職員の懲戒及び校長の任免その他の進退について内申すること。	1	○教職員人事について内申を行った。
(4)	県費負担教職員のサービスの監督の一般方針を定めること。	0	
(5)	前2項目に定めるもののほか、人事の一般方針を定めること及び懲戒を行うこと。	0	
(6)	県費負担教職員以外の校長、公民館長及び図書館長の任免を行うこと。	0	
(7)	教育長並びに教育委員会事務局職員の任免を行うこと。	1	○教育委員会採用職員の採用・退職について決定を行った。
(8)	学校、公民館及び図書館の敷地を選定すること。	0	
(9)	教育委員会規則等の制定又は改廃について審議すること。	4	○御前崎市教育委員会退職者の再就職に関する取扱要綱の新規制定 ○御前崎市牧之原市学校組合教育委員会退職者の再就職に関する取扱要綱の新規制定 ○御前崎市立小中学校管理規則の一部改正 ○御前崎市牧之原市学校組合立中学校管理規則の一部改正 について審議した。
(10)	教育予算その他議会の議決を経るべき議案について意見を申し出ること。	3	○平成28年度9月補正予算案(8月) ○平成28年度2月補正予算案(2月) ○平成29年度当初予算案(2月) について具申した。
(11)	社会教育委員、公民館運営審議会委員及び図書館協議会委員を委嘱すること。	3	○社会教育委員に7名、公民館運営審議会委員に25名、図書館協議会委員に5名を任命・委嘱した。
(12)	校長、教員その他の教育関係職員の研修の一般方針を定めること。	1	○校長会、教頭会、教務主任者会、生徒指導主事・主任会等各研修会の計画について検討し、実施した。
(13)	学齢児童生徒の就学すべき学校の区域を設定し、又はこれを変更すること。	0	
(14)	教科用図書の採択に関すること。	1	○平成28年度中学校用教科用図書について審議し、採択した。
(15)	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うこと。	1	○平成28年度御前崎市教育委員会の活動及び事務について点検・評価を行った。

大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

中項目	小項目	点 検 ・ 評 価	
(施策2) 生きていく力の 基礎の育成を図 る乳幼児教育	①『遊び込む 子』育成のため の環境を整えま す		(1) 自発的な遊びや体験の充実 ○夢中になって遊び込めるよう、一人一人の思いを受け入れながら、自発的な遊びを促す環境や援助に工夫がみられる。 ○『遊び込む子』の姿のおさえや手立てが明確でなく、評価の仕方が曖昧になっていることを反省する。 ○子どもが園に通うことを楽しみにしていると感じる保護者の割合は97%で、殆どの子が園生活を楽しみにしていることがうかがわれる。
			(2) 教諭・保育士の資質向上 ○スクラム研、歳児別研、園内研等、子どもたちが夢中で遊び込むための環境や援助について奈須教授や永倉教授、元園長等の講師に継続して指導を受け研修してきたことで、より子どもに寄り添って保育しようとする姿勢が多くなってきている。 ○発達に応じた遊びの質を更に高めるために『遊び込む子』に対する各園の実態の洗い出し、分析、手立ての具現化、具体化など、きめ細かい教育・保育構想の検討・共有をする必要がある。 ○臨時保育士の確保が難しく、保育園部職員の研修機会が保障しにくい状況が続いている。
			(3) 地域と触れ合う活動の推進 ○地域に出かけたり、地域の方を園に招いたりして、様々なかかわりや体験が試みられている。体験する内容を子どもの興味関心・指導計画と照らし合わせ、見直しや精選が課題である。
	②家庭や地域と 一緒に子どもを 育成します		(1) 家庭教育の推進 ○通園している子どもの保護者の中で、子育てを楽しんでいることの方が多い保護者の割合は95%と多いが、ネグレクト、虐待、DVなど家庭で抱えている問題は大きく、家庭教育力を高める方策に一層の工夫が必要。
			(2) 地域子育て支援センターの充実 ○昨年度開設の支援センターのみさきっこも登録者が増えた。子育て支援センター職員の親への傾聴姿勢で、センターに対する保護者からの信頼は高まってきているが、利用者のメンバーが固定化されつつあり、幅広く利用してもらったり、母親たちの自発性を促したりする工夫も必要である。 (3) 地域の人材の協力 (4) スクラムグッドマナーの推進 ○挨拶運動への取組やスクラム運営協議会での協議を通して、保護者の園に対する関心が高まってきている。

大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

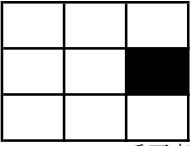
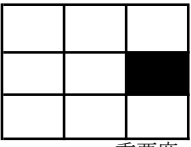
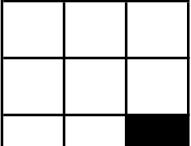
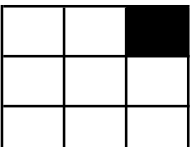
中項目	小項目	点 検 ・ 評 価	
(施策2) 生きていく力の 基礎の育成を図 る乳幼児教育			(5) 防災教育 ○緊急時の対応・対策において、地域とのつながりはまだ薄く、具体的な連携方法を考えていく必要がある。
	③早期からの発達支援の充実を推進します		(1) 5歳児健診 (2) 巡回相談 (5) 新野こどもの里による園訪問 ○5歳児へのきめ細かい健診や巡回相談やみなみめばえ、新野こどもの里等の療育機関との連携が年々密になってきていて、より望ましい支援に向かいつつある。 ○子どもの発達に不安を感じている保護者の園の発達支援体制に対する満足度は93%である。 ○早期療育の必要性に対する保護者への理解、啓発は引き続き課題である。 ○複雑な家庭環境や家庭教育力の低下などの背景から、支援を要する子が増加しており、幅の広い支援が求められる。園での支援がより充実できるよう、専門機関にも出前の支援を依頼する等、連携して、更に踏み込んだ支援をしていく必要がある。 (3) コーディネーター研修会 (4) 支援員研修会 ○研修会を通して、子どもの特徴や困り感等の理解、具体的な支援方法を学んだことが、保育の中で効果的な支援に生かされてきている。実際の療育の現場をみて、実態に応じた支援方法を研修していくことなども取り入れたい。

※こども発達センターみなみめばえ：東遠学園組合の療育施設で「新野こどもの里」と併設してH24に開設。発達の遅れが心配される子どもを対象に、毎日通園、並行通園、親子通園、保育所等訪問支援などを行う施設。

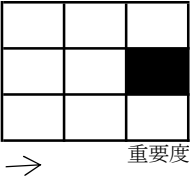
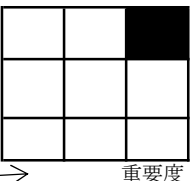
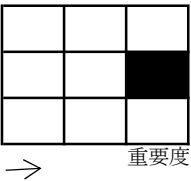
※新野こどもの里：市国保健康課が管轄する施設。発達の遅れが心配されたり、集団生活を送るのに支援が必要な子どもを発達相談や療育教室につなげるなど、必要に応じて適切な療育事業を勧める部署を配置。

※施策2の③の点検評価内は同じ類の項目をまとめて評価したため順不同となっている。

大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(施策3) これからの社会を生き抜くための資質・能力の育成を図る学校教育	①これからの時代に必要な資質・能力の育成を図ります。	実現度 ↑  → 重要度 実現度 ↑  → 重要度 実現度 ↑  → 重要度 実現度 ↑  → 重要度	(1) スクラム研究会 (2) スクラムゼミナール ○スクラム研究会を2園、小中各2校ずつ実施した。中学校の事前研に小学校職員参加し、小中の接続を意識した授業展開を協議したり、池新田高校職員の事後研での発言でスクラムの大切さを実感したりするなど成果が上がっている。次年度は、スクラムゼミナールとさらに連動し「子どもが主体的に思考を働かせる授業」のイメージを共有するため、視点を明確にした授業公開や協議が深まる事後研修会の持ち方を工夫する。 (3)～(7) 計画どおりに実施し、成果を上げることができた。 (8) 各種研修会 ○各種研修会を年間計画に位置付け「スクラム教育」の浸透が図られるように実施してきた。各種研修会実施における目標を明確にし、目標を達成するための手立てや達成状況を学校教育課内でさらに共有していく必要がある。 (10)「防災教育」「キャリア教育」 ○園小中が連携した引き渡し訓練の実施による課題が明らかになった。保護者に理解を求めさらに現実的な訓練へと進化させていく。本年度からエネルギー教育カリキュラムづくりを開始した。3年計画で、理科・社会・技術科におけるエネルギー教育を体系化する。電源立地市の市民としてエネルギーについての知識や理解、さらには今後のエネルギーについて考えることができるカリキュラムの作成を目指す。 キャリア教育については、今年度は各校ごと講演会や職業体験を行った。次年度は中学校区に1名ずつCSディレクターを配置し、地域と連携したキャリア教育を進めていく。 (11)灯台村塾 ○夏期休業中に、小学生を対象に6つの講座を開講した。今年度は、中部電力の協力を得て、ダッシュカー村も開催された。定員を上回る申込みがあった講座もあり、各小学校・アスパルを会場に171名の児童が参加した。各講座で日頃、学校では体験できない多様な活動が展開され、事後アンケートでは、9割以上の参加者が「たいへんよかった」「よかった」と感想をもっている。年々会場校以外の参加児童が多くなっており、他校児童との交流の機会にもなっている。
---	-----------------------------------	---	--

大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(施策3) これからの社会を生き抜くための資質・能力の育成を図る学校教育	②心と体づくりを推進します。	実現度 ↑  → 重要度 実現度 ↑  → 重要度	(1) スクラムグッドマナー運動 ○毎月10日に行われるスクラムグッドマナー運動は、各園・学校で工夫された挨拶運動が行われている。保護者・地域・高校の協力も得られ、広がりを見せている。「あいさつで つくろうスクラム 地域と共に」のスローガンの目標を達成するための活動や小・中学生の話し合いなどを支援していく。 (4) 情報モラル学習（ネットパトロール） ○学校では見えない部分がネットパトロールで見える化されている。生徒の実態の把握に努め、ネット被害を事前に食い止めていく。 (5) マリンスポーツ体験の実施 ○マリンスポーツ体験を全校で実施し、自分たちの住む御前崎の海を五感を通して感じ、海の良さを知る機会となった。はじめて体験する児童も多く、マリンスポーツの楽しさを知るきっかけ作りにもなっている。
	③個にきめ細やかに対応する教育環境体制づくりを進めます。	実現度 ↑  → 重要度	(1) 「しおかぜ先生」の配置 ○「しおかぜ先生」として、完全35人学級実現のため御前崎小に2名、個に応じた教育の推進のため浜岡中学校に1名、市費負担教員を配置した。児童生徒や保護者からも好評であり、採用した教員も意欲的に頑張っている。また、しおかぜ先生の指導員として学力向上コンサルタントを2名配置し、しおかぜ先生や若手教員の授業力向上につながっている。引き続きコンサルタントによる授業力向上と浜岡中学校の数学の学力向上対策を検討する。 (2) 「学習支援員等」の配置 ○今年度から常勤の学校図書館司書を1名増員し、2名の学校図書館司書が分担して全小中学校を巡回するようになった。これにより書架の整理が進み、廃棄・選書が適正に行われるようになった。中学校では、定期的に図書館の開放が行われるようになり、図書館を訪れて読書に親しむ生徒が増えた。また、校内の空きスペースに、新刊本の紹介コーナーや季節や学期に適応した図書掲示コーナーが設置され、読書環境が整った。さらに読書活動充実に努めるために、学校図書館司書と各校の図書館担当との連携を深める必要がある。

大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(施策3) これからの社会を生き抜くための資質・能力の育成を図る学校教育	③個にきめ細やかに対応する教育環境体制づくりを進めます。	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> → 重要度										(8)適応指導教室「サンルーム」 ○「サンルーム」には13名の児童生徒が入級し、指導を受けている。サンルームで力をつけ、自分に合った進路を見つけている子が多い。入級生徒の増加に伴い、きめ細かな指導を充実するため、指導員1名の増員を図りたい。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携をサンルーム連絡会を通して強化していく。								
④スクラムによる園・学校・家庭・地域の教育力向上を図ります。	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> → 重要度 実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> → 重要度																			(1)スクラムスクール運営協議会 ○地域と一体となった学校運営を実現させるために、昨年度スタートした「スクラムスクール運営協議会」（コミュニティスクール）を本年度は年6回開催した。白羽小学区では、コミュニティカレンダーが作成され、地域と学校をつなぐきっかけとなっている。スクラムグッドマナー運動にも、保護者の参加、学校同士の交流など各園校での具体的な取り組みが推進された。地域の教育力向上のため、組織の確立と具体的な目標を設定し、協議の充実を図ると共に、具体的な取り組みへとつなげていく。 (2)学校支援地域本部 ○学校支援地域本部の活動を充実を目指し「学校支援ボランティア交流集会」を行った。ボランティア本来の意味を再確認し、自身の活動の仕方を見直したり、それぞれの活動の価値を自覚したりすることができた。さらに学校支援地域本部拡大を図り、キャリア教育の推進を目指す。 (3)シニアスクール ○白羽小・浜岡中学校で61名のシニアが参加した。シニアの満足度は非常に高かったが、児童生徒との交流をさらに進めていく。

※スクラム・スクール・プラン(SSP)：保育園、幼稚園、こども園、小学校、中学校、高校を「1つの学校」ととらえることを基本として、園、学校、地域、行政がスクラム(相互理解、観の共有)を組んで、「とぎれない教育」の実現を目指す。

※SSP推進委員会：主幹教諭、教務主任、副園長で構成され、スクラム・スクール・プランの推進、各事業運営のサポートを行う。

※スクラムスクール運営協議会：学校運営協議会の御前崎版として、保護者や地域の人へのスクラム・スクール・プランについての理解の促進及び地域を巻き込んだ教育の実現に向け話し合う組織。中学校区単位で、学識経験者、地域代表者、園長、学校長で構成される。

※スクラムグッドマナー：豊かな心と思いやりのある心を育てることを目的に、「あいさつで つくろうスクラム 地域と共に」を合言葉として、市民のグッドマナーづくりを子どもたちが率先して進めていく。

※シニアスクール：55歳以上の市民を対象に、学校において年間10講座程度の授業を行う。児童生徒との交流もあり、開かれた学校を目指す。

大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(施策4) だれでもいつでもどこでも学べる生涯学習の充実を図る社会教育	①自立心を持った青少年を育成します。	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> → 重要度										(1) 家庭の教育力支援のスクラム ○家庭教育学級の推進 今年度、13学級が各園・各学校において保護者への学習の場や相談の場の提供を行うとともに、体験活動や家庭教育への支援などの活動を行うことができた。活動が毎年同じものの繰り返しにならないような展開の必要がある。 ○家庭教育支援員の設置 支援事業のさらなる展開(こども園等への支援)を図るため、支援員の拡充(2名から4名へ)を行った。相談業務等の活動について、社会教育課との連携をどう進めていくかなど課題が多くあり、模索している段階である。
実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> → 重要度										(2) 青少年健全育成のスクラム ○サポート隊による見守り活動 地域で子どもたちを守り育てる運動の一環として、サポート隊員により登下校時の見守りと声かけを地域全体で行なった。不審者は年間3件であったため、活動の効果は高いと考える。 ○こども110番の家 通学沿いの家(主に店舗)に依頼し、どの地域でも協力的に受け入れられている。子どもが駆け込んだという事例は現在ない。 ○青少年補導員の活動 夏・冬期青少年補導、土曜パトロール実施しているが、補導の事例はない。また、成人式やみなと夏祭りでの補導を行っている。 ○声かけ運動の推進 県が実施している「地域の青少年声掛け運動」に協調し、参加者を募っている。本年度までの登録者は、4,306人で、年間を通して運動を行っている。組織的な運動ではなく、個人的な活動のため、運動を盛り上げる取り組みが必要である。 ○青少年健全育成の推進 青少年健全育成の推進については、地域、学校、行政がスクラムを組み、各地区では青少年健全育成懇談会を開催した。しかし、出席者が役員だけという場合が多く、市民への広がりが課題である。 また、「青少年の未来をつむぐ集い」を実施し、わたしの主張作文、絵本コンクール発表、浜岡北小学校6年生の新野左馬助学習発表、スクラムグッドマナー運動発表など子どもたちが頑張っている姿を市民に披露した。市民が一体となって青少年健全育成についての機運を醸成できた。 成人式では、今後の御前崎市を担っていく意識を持ってもらうために、市出身者や、市内で活躍している人から新成人に向けての応援メッセージを上映するなど、工夫した取り組みができた。		

大項目 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(施策4) だれでもいつでも でもどこでも 学べる生涯学 習の充実を図 る社会教育	①自立心を持 った青少年を 育成しまし ます。	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td>■</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> → 重要度			■							(3)体験型学習機会のスクラム ○小・中連携体験合宿の実施 小・中連携体験合宿は、行き先を広島県へ変更し、平和学習や炊事体験等様々な体験学習を取り入れた。45名の小学生と中学生リーダー7名の参加があり、子どもたちの異年齢の交流、集団生活への適応力などを養う良い経験となった。今回より中学生を実行委員会へ参加させ、リーダーとしての責任感と自主性を高めることができた。今後、研修内容を検討し、さらに参加が増えるよう充実を図りたい。 ○親子工作教室の開催 親子工作教室は、30名の小学生の参加があった。今年度で33回目を迎えた歴史ある教室であり、木のぬくもりを親子で体験できる貴重な体験となっている。 また、市内木材業者の振興や周知にもつながる活動でもある。
			■									
		実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>■</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> → 重要度						■				(4)グッドマナー運動のスクラム ○「あいさつでつくろうスクラム 地域と共に」との連携 スクラムグッドマナー運動の一環として、意識高揚と啓発のためにスクラムグッドマナーTシャツを作成し、市内の協力者に着用していただいた。少しずつではあるが、浸透してきており、今後は、更なる推進普及のため小・中学校等と連携を図り、公民館とも連携して、地域への展開を進めていく。
		■										
	②誰もがいつ でも学ぶこと のできる生涯 学習基盤を充 実させます。	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>■</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> → 重要度						■				(1)生涯学習基盤・拠点のスクラム ○安心・安全な公民館等の維持管理 一部の公民館では老朽化が進み、修繕が必要な箇所が増加しているが、予算の範囲内で対応している状況である。誰もが安心して利用できるよう公民館となるよう計画的な修繕・工事の実施に努めていく。 ○公民館活動の支援 公民館活動については、公民館に対して各地区の特色を生かした各種講座やコミュニティ事業を展開できるよう公民館活動支援補助金を交付し、誰もが参加できる学習の場を提供している。各公民館とも工夫した活動を行っており、効果は高いと考える。 反面、本来の公民館活動以外の業務が多く、館長、事務職員の負担増加が課題となっている ○社会教育学級の推進 今年度28学級が登録し、各学級が年間を通じて様々な活動を行っている。各学級の活動には、5万円を限度に活動補助を行っており、様々な活動に使用できるため、利用価値の高いものになっていると考える。さらに、活動が充実するよう、情報提供などの支援も充実させたい。
		■										

大項目 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

			○公民館のあり方の検討 今年度、公民館あり方検討委員会を立ち上げ、多様化する社会状況の変化の中で増大する公民館活動に対応し得る施設への移行を目指して検討を行っている段階である。									
		実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> → 重要度										(2)生涯学習情報発信のスクラム ケーブルテレビや公民館だよりを中心に公民館活動について広報を行っている。市民の公民館活動や生涯学習への参加意欲の高揚を図るため、今後も積極的に情報発信を行っていく。

大項目 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(施策4) だれでもいつでもどこでも学べる生涯学習の充実を図る社会教育	③地域文化財や芸術文化の継承と推進を図ります。	実現度↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> → 重要度										(1)地域文化財継承のスクラム ○文化財の保護と継承 本年度新たに、佐倉地区池宮神社の「徳川慶喜揮毫の池宮神社扁額」を市の文化財に指定した。所有者の理解と協力により新たな指定となった。今後も新たな文化財の発見と保護を行っていく。 また、高松倉庫に保管してある貴重な有形民俗文化財を害虫やカビ等から保護するため、燻蒸処理業務を実施した。さらに平成8年度に作成された県指定民俗文化財「桜ヶ池のお櫃納め」ビデオのDVD化を行った。今後も文化財の継承と魅力の発信を行っていく。 ○埋蔵文化財出張授業の開催 浜岡北小6年生を対象に埋蔵文化財出張授業を開催し、地域の文化財に対する理解と魅力の発信に効果があった。しかし、授業の希望が1校だけであったため、多くの学校で開催できるようさらに授業の内容を魅力あるものにしていく。 ○国指定文化財ウミガメの保護 昭和47年より開始したウミガメ保護監視活動を地道に行うことにより、本年度は6,249頭の子ガメのふ化があり、多くの子ガメを海に帰すことができた。一方、監視員の高齢化が課題であり、後継者の育成が急務である。また、産卵観察会と放流観察会を実施し、市内外から多くの参加者が訪れ、ウミガメの保護活動を通じて自然環境保護への関心を高めることができた。今後もウミガメが御前崎市で産卵ができるよう、砂浜の環境保全と保護活動の充実に努める。 ○文化財展示の企画 答礼人形「富士山三保子」の里帰りを実現する会による「富士山三保子」の市町巡回展を図書館で開催した。市指定有形文化財「旧朝比奈小学校の青い目の人形」の展示を行い、2日間で539名の観覧者があり文化財の周知に効果があった。 ○文化財年報の発刊 文化財年報(平成27年度版)を発刊し、文化財事業の記録を残した。発刊が年度末となったため、次年度は、早期に発刊する。 ○小中学校への地域資料などの情報提供・貸出し 白羽小の通学合宿において、星の糞遺跡の出土遺物の貸出しを行い、埋蔵文化財への理解が進んだ。 ○直虎応援プロジェクト事業の推進 直虎プロジェクト事業として関係機関・団体と協力し、直虎の伯父である「新野左馬助公」のPR活動に努めた。また、「新野左馬助公展示館」を開館し、左馬助公や研究者である故鈴木東洋氏の実績を展示することによって、地域の歴史や魅力を発信することができている。

大項目 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(施策4) だれでもいつでもどこでも学べる生涯学習の充実を図る社会教育	③地域文化財や芸術文化の継承と推進を図ります。	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> → 重要度										(2) 文化・芸術にふれる機会のスクラム ○文化祭の開催 文化協会と連携し、小・中学校音楽発表会を皮切りに、さまざまな文化活動を披露する文化祭を開催した。来場者数も2,500名を超えるなど多くの市民が文化活動に接する機会を提供できた。しかし、芸能発表の来場者数が昨年度に比べ大幅に減少するなど課題を残した。 ○市民ギャラリー作品展の開催 清川泰次芸術館では、市民ギャラリーを開設しており、文化協会や一般の方の作品展示を行った。しかし、現状では集客に乏しく、創意工夫により魅力ある運営を図っていきたい。 ○伝統文化子ども教室の実施 丸尾記念館では、七夕・お月見のお茶会や、伝統文化親子教室が開催され、幅広い年代の市民へ芸術文化活動の場を提供することができた。 ○県巡回劇場の実施 市内小学校5、6年生を対象に、三味線や和太鼓の演奏会を行った。よく知っている曲の演奏で音楽芸術を身近なものと感じることができ、和楽器による芸術への興味を高めることができた。 ○クリスマスコンサートの開催 例年、クリスマスコンサートを行ってきたが、本年は文化会館の工事により、時期を遅らせて、文化会館開館30周年記念コンサートとして、開催した。本事業は、26回目の開催となり、市民に定着した事業となっており、音楽の普及・振興に寄与している。 ○文芸おまえぎの発刊 市民101人から125作品の応募があり、投稿者数は昨年度よりも増加している。市民の文芸に対する関心は確実に高くなっている。 ○文化協会への運営支援 文化協会へ運営補助金を交付し、その補助金により事務員を雇い事業を進めている。補助金の有効な使用により、積極的・自主的な運営ができており、文化の振興に寄与していると考えている。
実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> → 重要度										(3) 文化・芸術活動を楽しむ場のスクラム 丸尾記念館、清川泰次芸術館・市民ギャラリーとも、一般の来館者は少なく、来館者が多くなるよう、工夫・展開が必要である。		

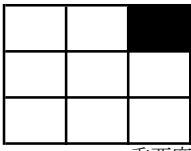
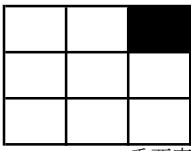
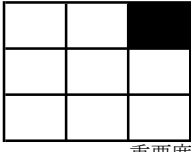
大項目 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(施策 4) だれでもいつでもどこでも学べる生涯学習の充実を図る社会教育	④心身ともに健康な市民を目指すスポーツの振興を図ります。	実現度 ↑ → 重要度 <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table>										(1)スポーツ振興のスクラム ○各種軽スポーツ教室及び大会 スポーツ推進委員の指導により、軽スポーツ教室を開催した。人気のあるソフトバレー教室やデカスポテニス教室を取り入れ、参加者も定員に近い人数が集まった。アンケートでは、実施回数もちょうど良く、次回も参加したいという意見が多い。また、各種スポーツ大会を開催し、昨年よりも参加チームが増大した。 これらの活動により、スポーツに親しむ機会が増大し、市民の健康増進・交流の場提供に大きく寄与していると考ええる。 ○ママさんバレーボール大会 大会は、各地区のチームを中心に11チームの参加があり、盛り上がりを見せた。 ○綱引き大会 綱引き大会は、参加チームが年々減少傾向にあり、参加チームを増加させるため、内容の見直しを検討する必要がある。 ○市町対抗駅伝競走大会の参加 本年度は順位、タイムとも目標に届かなかった。中学生・高校生選手の育成など選手育成に中長期的な戦略とその実施体制の整備が急務である。 ●体育協会主催事業について 体育協会と連携し、各種スポーツ大会を実施し、市民がスポーツに参加する機会の提供ができた。体育協会の自立について、新たな体育協会運営のための準備委員会を立ち上げた。この委員会により自立化に向けた協議を進める。 また、スポーツ少年団活動への育成費補助により、優秀な成績を収め、活発な活動が行われている。

大項目 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(施策4) だれでもいつでもどこでも学べる生涯学習の充実を図る社会教育	④心身ともに健康な市民を目指すスポーツの振興を図ります。		(2) マリンスポーツ振興のスクラム ○磯の生物ウォッチング&ビーチコーミング教室の開催 事前申込者は昨年度よりも増加し、市外からの参加者もいるため、事業の定着が進んでいる。ただし、当日は小雨だったため、参加者は5割程度であった。 ○小学生海洋体験活動事業の受け入れ 御前崎マリンスポーツクラブと連携し、市内全小学校を対象とした教室を開催することができた。また、市内教職員のスクラム分散講座の一つとして海洋体験研修も実施できた。これらの事業により、海洋スポーツ普及が進み、底辺拡大ができた。 ○マリンスポーツフェスタの開催 市内外からの入場者が昨年度よりも100人以上増え400人以上が参加して盛り上がりを見せた。マリンスポーツのPRができたが、さらに参加者の増加を図りたい。 ○小・中学生ヨット教室の開催 牧之原市と共同で開催し、例年以上の参加者があった。 ※その他 ○昨年度まで実施していた市民体育大会をリニューアルし、市民の体力測定会と飯塚翔太選手によるランニング教室を実施し約300人が参加した。参加者より、自らの体の現状を数値で知ることができてよかった、などの意見が多く、市民の体力向上のきっかけ作りとして成果があった。今後も継続し、参加者の増加を図る。 ○体育施設の老朽化により、年々工事、修繕が増えている。施設の長寿命化を考慮した計画的な工事、修繕を実施し、利用者の安全の確保に努めたい。
--	-------------------------------------	--	--

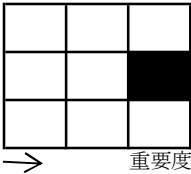
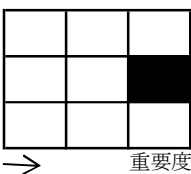
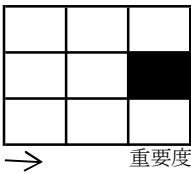
大項目 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(施策5) 市民と共に考え 共に歩む市立 図書館	①多彩な文化 事業を展開しま す。	実現度 ↑ → 重要度 	○昨年度に続き第2回手づくり絵本コンクールを開催した。今年は市民代表による実行委員会組織を立上げ、市民目線で多くの方に図書館に関心を持っていただくよう働きかけた。コンクールを継続して開催することにより、読書の楽しさや本の魅力を知ってもらうとともに、市内外にアスパルの存在をPRすることができた。 ○学びたくなる場の提供とその成果発表の機会として、灯台村塾に併せ宇宙天体の話、手づくり絵本教室、川柳講座、つるし雛づくり教室などを開催し多くの方に楽しんで頂いた。また館内特設コーナーでの展示、2F展示ギャラリーで市民、学校など多くの方による様々な展示が行なわれ発表の場として多くの人を魅了した。
	②子どもの読書 活動を推進しま す。	実現度 ↑ → 重要度 	○子どもと本を繋げる活動を推し進めるため、未就園児の親に対する「読み聞かせの大切さ」等の啓発活動や読み聞かせ、巡回貸出、団体貸出等、園・学校への支援と連携に努めた。 ○絵本の読み聞かせボランティア「ごんの会」の活動も3年目に入り、子どもたちが楽しみながら、想像力や知識を身につけることができるよう定着してきた。 ○読み聞かせボランティアの交流研修会を5月に開催し、読書推進活動を支える皆様のスキルアップと交流を行ない好評だった。今後、市民協働により図書館を核とした読み聞かせボランティアの人材育成とネットワークづくりに努める。
	③ニーズに即した 快適で魅力ある サービスを提供 します。	実現度 ↑ → 重要度 	○市民のニーズに応えられるよう選書を心がけるとともに、相互貸借なども活用しリクエストにも可能な限り応えるよう努めた。貸出し冊数は県内有数を数えている。市民満足度のサービスの充実面では、高い評価を挙げている。 ○市民から視聴覚資料充実の要望が多いため、ビデオテープからDVDへの移行を積極的に進め、幅広い分野からの選定に心がけ所蔵数を増やすことに努めた。

大項目 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(施策 6) 子供の心と体を支える魅力ある園・学校給食	①食育と地産地消を推進します。	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> → 重要度										○今年度は、2 幼稚園と 4 つの小学校から依頼を受け園児、1 年生、3 年生、4 年生の児童と保護者を対象に栄養講話を行った。栄養教諭や栄養士が試食会後保護者会にも参加し、食育の推進をすることができた。さらに、全小学校の 6 年生のテーブルマナー指導、4 年生の生活習慣病予防講座、学校保健委員会での講話、総合学習での講話等、様々な依頼を受け、指導の場があった。 また、4 つの小学校の 1 年生から 4 年生の学級活動に講師として参加したり、全小学校全学年全学級の給食前 15 分指導を実施したり、給食中の様子を見に行ったりすることを通して、残食が減る、好き嫌いを減らすなど、子どもたちに食育の意識が高まることが確認できた。 また、地産地消を推進し、県内産品目の使用割合が 61 %で、その内の 25 %が地元産を活用した。 このように、園・学校・給食センターの連携により近年残食が減少傾向にあるが、小中学校に比べ、園においてはまだ残食が目立つ。また学校間の格差もある。全体の残食率は 3.4 %で、前年を 0.2 %下回った。
②安全安心な給食の提供を実施します。	実現度 ↑ <table><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td></tr></table> → 重要度										○安心安全な給食の提供を確実にするため、毎日衛生管理者である栄養士、栄養教諭が委託業者の代表者と連絡を取り合い、施設や食品、調理員の衛生の管理に対する指導を行った。 さらに、毎日、栄養士が委託業者の代表者に調理及び配送等の作業動線図や作業工程表を示し、確認しあい、適切な調理が行われているか調理後も指示した作業の変更点の確認も行った。 今年度から、アレルギー食については、事故防止を防ぐためチェック体制を強化した。センター長、園長、校長の検食とともに、当日のアレルギー食の確認、記録簿への記入をお願いした。さらに、栄養士から調理員へのチェック、調理後の栄養士へのチェック、配送のチェック、園や学校の受け取りのチェック、担任のチェックの 6 段階のチェック体制を強化し、事故防止に努めた。 調理員、職員、園や学校等の給食従事者について、月 2 回の保菌検査を実施。また調理員・職員はノロウイルス検査など、必要に応じた諸検査を実施し衛生管理に努めた。 異物混入を防ぐため、食材の納入から調理、配缶、配送に至るまで、安全管理の徹底を行っており、調理員及び物資納入業者の意識も向上した。	

大項目 3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(施策7) 充実した教育環境の整備を図る 教育総務	①安全安心な教育環境の充実を図ります。	実現度 ↑ → 重要度 	○特定建築物・建築設備定期検査の結果をもとに、定期的な修繕、長寿命化改修工事の見直しを順次計画している。 ○当初予算に反映した、浜岡東小学校の外壁塗装及び屋根防水工事を行い教育環境の改善に努めたうえ、定期的な点検を行い維持管理に努めた。
	②教育情報化に必要となるICT環境の基盤を整備します。	実現度 ↑ → 重要度 	○平成26年度から4年間かけて教育ICT化環境整備を実施し、学校における情報機器の安定的かつ計画的な整備に取り組んでいる。 ○今年度は、教員用タブレットPCを全小中学校に設置した。また、中学校におけるパソコン教室の更新に伴い機器の入れ替えを行う。更に電子黒板機能付きのプロジェクターを2台/学校購入し、相互個々の機器接続により様々な利用方法が拡充できた。 ○今年度も、第一小学校にICT支援員を1名配置した。今後も、全校で円滑な運用ができるようにするため、支援員の有効な活用を検討していく。
	③浜岡中学校の建替えに着手します。	実現度 ↑ → 重要度 	○58年以上経過している鉄筋コンクリート造りの校舎は老朽化が進んでいるため、平成27年度に耐力度調査を再度実施し、耐力度不足で危険な建物との判定結果になった。 本年度、改築検討委員会の開催、基本設計業務の発注、基本構想・計画を策定し改築に向けたスタートを切った。

IV 学識経験者の意見

1. 大項目1 教育委員会の活動

あらゆるところでスクラムという単語を聞き、「御前崎の教育」についての情報発信の実現度が高いと感じている。情報発信に関しては、専属職員を常駐するくらいのつもりでないと、なかなか更新はできない。難しい問題ですが、ぜひ強い気持ちで取り組んでいただきたい。

2. 大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務

(1) 生きていく力の基礎の育成を図る乳幼児教育

具体的な数値を載せることで「見える化」し、より良くなっていますが、環境の仕掛けなどをこれから更に勉強していくことが課題だと思います。教育委員会と幼児保育の関わりが親密になってきたと感じました。園長、職員に教育委員会の指導が浸透してきていると思います。先生方が、「遊びこむ」という言葉を通して、その言葉の意味を理解されてきたことが大きな変化だと思います。

(2) これからの社会を生き抜くための資質・能力の育成を図る学校教育

子どもたちがどんな形でスクラム・スクール・プランに携わってきたのか気になりました。やらされているという気持ちではなく、自ら必要性を感じ取り組むことが大切です。「挨拶は気持ちの良いものだ」ということが浸透できていれば、挨拶が自然とできるのだと思います。それが大人であっても、子どもであってもそういったところが出てくるのだらうなと思うので、そのような話合いをする機会を大事にしていきたい。

白羽小学校のスクラムカレンダーは、とても素晴らしい。

(3) だれでもいつでもどこでも学べる生涯学習の充実を図る社会教育

社会教育は、地域との信頼関係があってこそ色々な事業が充実してくると思います。色々なところで協力をして下さっている人と、出来る範囲で職員が地域の方とのコミュニケーションの場を大切にし、進めていくことが大切だと思います。

ウミガメ保護について、監視員の高齢化と後継者育成の問題ですが、後継者というのはあらゆるところで人の取合いになっていくと思いますので、中長期的に取り組んでいただきたい。

(4) 市民と共に考え共に歩む市立図書館

攻める工夫が実績を上げてきていると思います。県内で有数の利用者数の館になっていて、イベント等も工夫されており、職員の方は大変努力されていると思います。今後も継続し、新たに色々な要素を取り入れていただきたい。

(5) 子供の心と体を支える魅力ある園・学校給食

園児、児童、生徒及び保護者を対象にした栄養講話、その他の各種講座を行ったことはよい。今後も、アレルギー食の確認、ノロウィルス検査など安全安心な給食の提供に努めていただきたい。

(6) 充実した教育環境の整備を図る教育総務

ICT 支援員というのは、機器の使い方、効果的な活用法を教えてくれると思いますので、実践的な研修を行い授業の中で ICT 機器を上手く活用し、学力向上に努めていただきたい。

V 総合評価

1 大項目ごとの評価

「大項目1 教育委員会の活動」について

御前崎市教育委員会が打ち出す施策の中心に、スクラムプランが体系的に位置付いており、教育委員会の活動の大きな柱になっている。教育委員会の施策方針の明確化や多様な施策の体系的推進が必要とされる中で、スクラムプランを柱に、教育委員会が一貫して取り組む姿勢は、他市には見られない特徴といえる。

中項目（1）の①②⑥⑦⑧は、重要度も実現度も高く成果を上げている。特に、①⑦の教育委員の研修および情報収集活動に関しては、例年意欲的な取組がなされている。また、昨年度から発足した⑥の総合教育会議については、市長と教育長の連携を強化するとともに、教育振興基本計画の推進につながっている。

一方、⑤の教育委員会および教育施策等に関する広報活動については、一層の工夫が必要とされるとともに、ホームページの開設など、今後の課題が残されている。

「大項目2 教育委員会が管理・執行する事務」について

教育委員会が管理・執行する事務については、主要施策が「スクラム御前崎」として明確化されており、全体として円滑な管理・執行が行われている。今後も、御前崎市教育のさらなる発展につなげていくために、スクラムプランの体系化とその実現状況との関連を踏まえ、一層有効な管理・執行に配慮して頂きたい。

「大項目3 教育委員会が管理・執行を教育長に委任する事務」について

施策2の乳幼児教育については、研修の機会の確保が難しい中で、様々な研修会を通して保育関係者の資質向上の取組が行われている。スクラムグッドマナー運動、支援センター「みさきっこ」など、御前崎市らしい取組が成果を上げている。また、「こども発達センターみなみめばえ」「新野こどもの里」との連携など、御前崎市の地域資源を生かした施策の展開も行われている。乳幼児教育は、学校教育や社会生活の基盤として重視している市町が多いことから、今後も、スクラム研、園内研、幼保小連携、巡回相談等に力を入れ、保育関係者の資質向上や研修のバックアップに配慮し、「遊び込む子」の育成につなげて頂きたい。一方で、ネグレクト、虐待、DV など家庭の根深い問題も皆無ではないことから、今後も家庭教育力を高める指導を継続して行っていく必要がある。

施策3の学校教育については、御前崎市ならではの取組である灯台村塾、マリンスポーツ関係の施策が成果を上げている。小・中、中・高を対象としたスクラム研究会をはじめ、各種研修会の実施など、教員の資質向上への取組が行われている。また、「しおかぜ先生」や学習支援員の配置、適応指導教室「サンルーム」の指導など、児童生徒の状況に対応したきめ細かな指導がなされている。さらに、スクラムカレンダーの配布、スクラムスクール運営協議会、学校支援地域本部、シニアスクールなど学校・地域との連携を強化する事業が多面的に行われており、御前崎市の特色になっている。今後も、御前崎市教育委員会の主要施策を踏まえ、地域の特色を生かした創意工夫のある取り組みを推進していくことが

期待される。

施策４の生涯学習の充実と社会教育については、①の「自立心を持った青少年の育成」で、平和学習を取り入れた体験型学習機会の提供、親子工作教室の継続などが成果を上げている。スクラムプランを柱とした家庭教育学級の推進、青少年健全育成活動、グッドマナー運動など、幅広い活動が展開されている。②の「生涯学習基盤の充実」について、公民館活動の支援、社会教育学級の充実、情報発信などが前向きに取り組まれている。公民館活動については、施設の維持管理や事務職員の負担の問題など、今後も継続した対応が必要である。また、③④についても、ウミガメ保護監視活動、直虎応援プロジェクト、伝統文化子ども教室、マリンスポーツ関係の事業など、御前崎市の特色ある活動が展開されている。今後も、御前崎市の自然・文化・伝統などを生かした取組を充実させていくことが期待される。

施策５の図書館活動については、図書館主催の文化活動を柱に、絵本関係の活動、視聴覚資料の提供、読み聞かせボランティアの研修会、市民ニーズに対応した選書などが前向きに取り組まれ、成果を上げている。今後も、より市民に身近な図書館にするために、郷土関係資料や市民の出版物コーナーの充実を図ることも重要である。

施策６の学校給食については、食育の振興と地産地消の推進が総合的に効果を上げている。特に、安全安心な給食やアレルギー食への配慮などに関するチェック体制が行き届いており、安全管理に関する関係職員の意識向上が図られている。

施策７の充実した教育環境の整備については、必要な点検整備がなされており、計画的な改善が行われている。ただし、特にＩＣＴに関しては、情報社会の進展に対応したＩＣＴ環境の整備、ＩＣＴ支援員の配置と活用が今後も一層必要である。

２ 全体についての総合的評価

御前崎市教育委員会の活動全体として、御前崎市の自然・文化・伝統を生かした教育施策が、スクラムプランを柱にして体系付けられている。一つの理念を中核にして、各種の教育施策が体系化されていることは他市の教育委員会に見られない特色といえる。今後については、実現度の低い項目の原因を明らかにするとともに改善を図る必要がある。

今後に向けた留意点として、次の点が挙げられる。

- ①教育委員会の活動に関する広報・ＨＰ開設、家庭・地域との一層の連携、社会教育および図書館活動の推進、ＩＣＴ環境の充実などについて、今後もスクラムプランの教育施策と連動させて推進することによって総合的に成果が上がるよう図ることが重要である。
- ②地域文化財の保護や文化活動の継承については、その重要性和価値に鑑み、今後も一層充実させていくことが重要である。御前崎市の特色ある自然・文化・伝統などが、学校教育において今後も有意義に活用されることが望まれる。
- ③スクラムカレンダーのようなアイデアが、市民や地域の自主的な取組として、学校と地域の連携を強めるために生かされるよう配慮することが重要である。
- ④防災教育については、現状でも相当な努力がなされているものの、御前崎市の地理的な状況から、後は復興教育にも配慮した取組が必要である。

「スクラム」についてのアンケート調査結果 (御前崎市教育委員会自己点検評価に伴う外部評価)

○実施日：平成29年2月

○調査対象：市内小学校5校、中学校2校、幼稚園3園、保育園2園、こども園3園
に勤務する教職員、保育士、幼稚園教諭
公民館長、社会教育委員、スクラムスクール運営協議会員、
教育委員会職員

○依頼数：341人

○回収数：284人（回収率83.3%）

○質問項目

【質問1】

基本目標「郷土を愛し、未来を創る人づくり」を目指し、御前崎の教育を
「スクラム」で推進していることをあなたは知っていますか。

【質問2】（質問1で①十分知っている、②知っていると答えた方に）

キーワード「スクラム」の意味や意義について、どれくらい理解されていま
すか。

【質問3】

御前崎の人づくりにスクラムの成果が出ていると思いますか。

【質問4】（質問3で①十分成果があった、②成果が出ていると答えた方に）

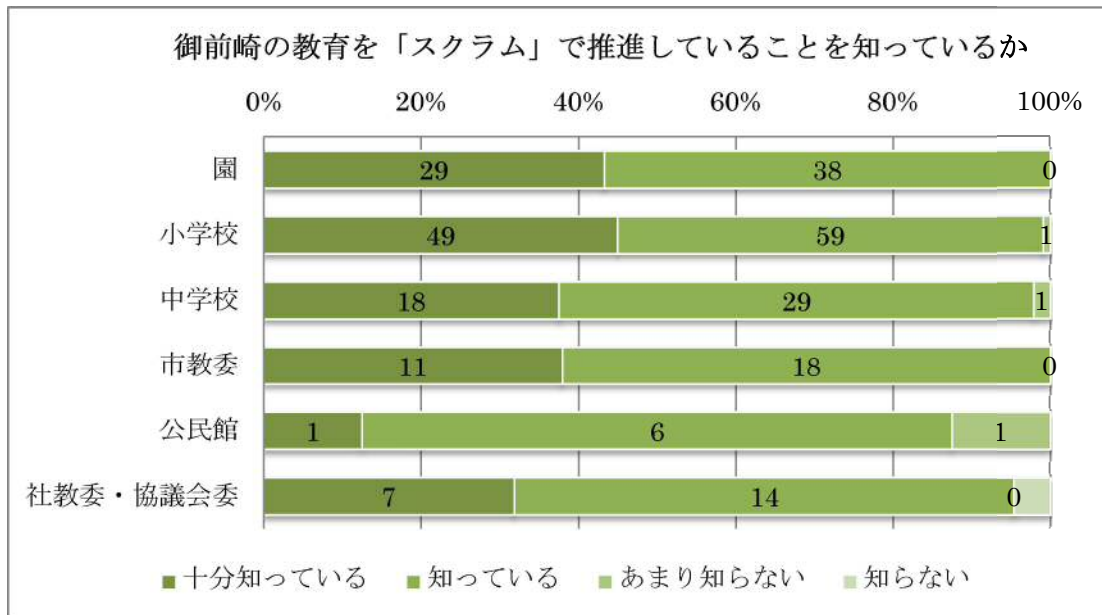
具体的にどんな成果があったと思われますか

【質問5】

御前崎の教育をスクラムで推進するにあたり、今後の工夫や改善点があった
ら書いてください。その他ご意見がありましたら書いてください。

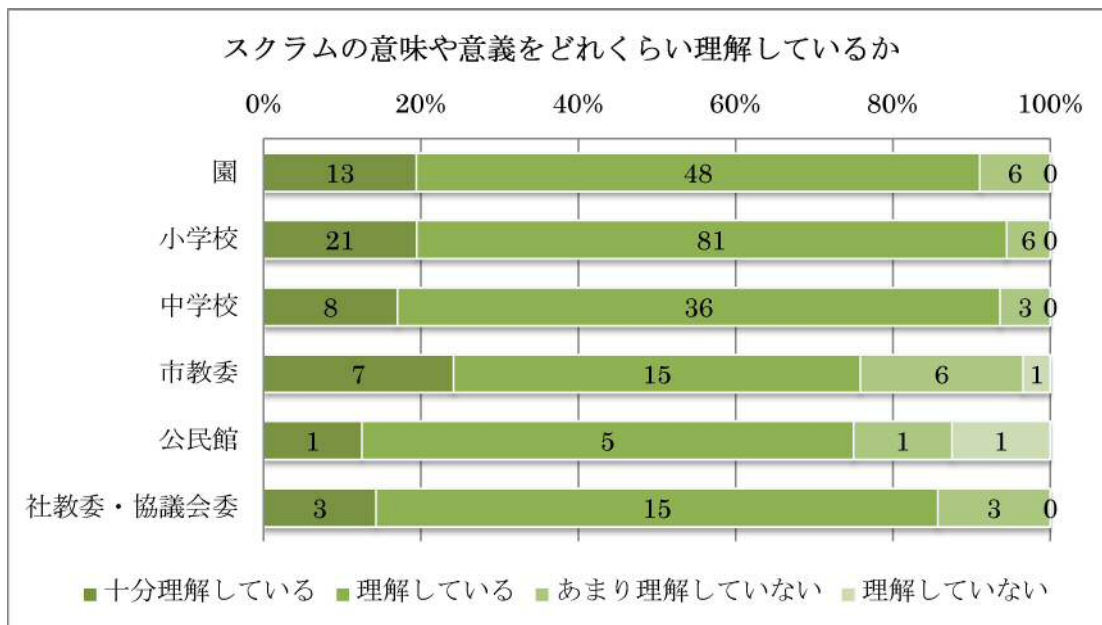
【質問1】

基本目標「郷土を愛し、未来を創る人づくり」を目指し、御前崎の教育を「スクラム」で推進していることをあなたは知っていますか。



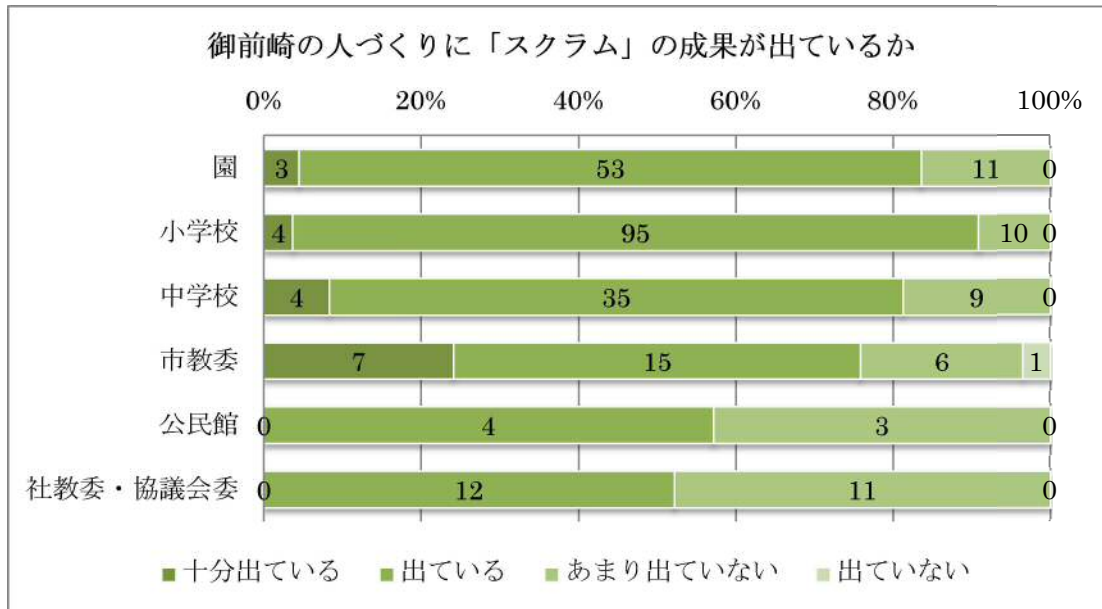
【質問2】（質問1で①十分知っている、②知っていると答えた方に）

キーワード「スクラム」の意味や意義について、どれくらい理解されていますか。



【質問3】

御前崎の人づくりにスクラムの成果が出ていると思いますか。



【質問4】（質問3で①十分成果があった、②成果が出ていると答えた方に）

具体的にどんな成果があったと思われますか

教職員

①スクラムスクールプランについて

- 御前崎市の教育が市として一つの方向に向かっていることで、公開保育、公開授業を通してより深く研修できている。
- 「スクラム」という共通の目的意識を持ち、研修会や会議の場で顔を合わせる機会が多くなったことで、以前よりも園小中高の先生同士がつながっている。
- 中学校の問題を知ること、他人事ではなく、「だから今何が大事なのか」職員や保護者と話し合うことにつながった。
- 園小中高の職員が子供について話ができる機会があり、御前崎の子供をどんな子にしたいか共通理解できるようになってきた。
- 教職員の子ども観、授業観などがそろってきていることを授業公開や話し合いから感じる。生徒指導上の指導場面でもこれまで以上に同歩調で働きかけができていたため、保護者の理解が得られやすい。
- 園小中高が一緒に研修する機会が増えたため、将来を見据えて互いに連携しながら教育活動に当たっていると感じられる。
- 園で学んできたこと、中学校で大事にしていることを知りながら活動していくことで、小学校での積み重ねや中学校を意識した生徒指導、授業づくりを目指しやすくなった。また子どもたちにもきちんとそのことを伝えられるようになった。
- 中学校として、小学校との交流が増えたことによる授業改善が一番の成果である。授業案検討が大

変勉強になる。

○スクラムを組み、連携を図ることで小学校で頑張ってきたものを中学校で崩さないように意識できるようになった。

○スクラム研修会で、園小中高の教職員が意見交換することで、よりよい指導を考えるきっかけがきている。

全般から

○地域の方との話し合いで、「御前崎はスクラムでやっているよね。」という話題がしばしばでてくるようになっている。

○あいさつ運動などで、小中、高校で一緒に活動し、それを地域の方々が認めてくださっているように感じる。

○子供の下校時間に合わせて散歩しているが、出会う子のあいさつが以前よりかなりよくなってきている。

○挨拶運動が中心だが、中学生が小学校へ出向いたり、活発に活動してくれて、保護者も参加が多くなり意識されている。

○園小中高が子供の言葉に同じ方向で挨拶運動を始めたことは第一歩。

○地域の方と顔見知りになり、子どもたちの活動の場が広がっている。

○スクラムカレンダーができて、行事や催しなどの把握ができるようになった。

○地域住民まで浸透しているとは思えないが、生徒児童の中にスクラムの意味や意義を理解していることが確実に増え始め、10日の活動参加人数が増え始めている。カレンダーができたのも素晴らしい。

○挨拶を通して今までよりいろいろな方々と顔見知りになった。スクラムを通じて各立場の方々の思いを共有できた。

【質問5】御前崎の教育を推進するに当たり、今後の工夫や完全点があったら書

いてください。その他ご意見がありましたら書いてください。

○地域や保護者にスクラムが十分行き渡っていない。

○市内外に情報発信することが必要である。

○カレンダーづくりなどを通して、地域に広めていくことが大切だと思う。

○家庭、地域のスクラムが少ないので、もっと地域にアピールしてほしい。

○具体的にやっていることをもっと多くの人にPRしてほしい。

○家庭環境、経済状況、地域環境等が異なる中で、画一的に述べることは大変難しく、特効薬はみつからないが、この運動を地道に継続していく中で育った子どもたちが、10年先、20年先に我が子に地域の子どもたちに今度は支援する立場になるときを楽しみにしたい。運動の裾野は確実に広がっていくと思う。